



ぶどうの枝

2016年
冬号

天が地よりも高いように…（2）

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

私が名古屋教会牧師インターンを終えて、森の都「仙台」の地に立ったのは、1982年の3月のことだったと思います。仙台教会は、とても敷地の広い教会でした。内庭には自称「日本庭園」もあり、名古屋教会では教会の建物のみの印象でしたが、仙台の駐車場の広さにも驚きました。この仙台教会での働きと出会いの思いでは、いくつかあります。名古屋教会の主任牧師は折原盛先生でした。仙台教会では根本和次（ねもとまさじ）先生とその奥様に、約1年半程お世話になりました。

仙台では鳴子温泉旅館経営者の高橋温子姉の所へ聖書研究に行くこともありました。その時印象的であったことは、道中に見るデカ文字で書かれた大きな看板です。「死後さばきにあう」と車の運転中に見る光景が今も心に焼き付いていますが、これを見る度にしっかりと運転しなくてはとハンドルを握りなおしたものです。

それにしてもあの看板文字、もっと暖かいメッセージを書けなかったのか、「たとえば『信じる者は救われる』とか…」ですが、あのような内容ゆえ今も心に残っているのかも知れません。

仙台ではPFC（パスファインダークラブ＝子供のクラブ）に励みました。子供たちとの交わりばかりでなく、その保護者（特に未信者）の方々と楽しい交流をさせていただきました。これがきっかけで山田啓子さんという方（PFC保護者で未信者）のお宅で聖書集会を開くことが出来ました。あの東日

本大震災後に山田家の安否を確認したところ、家族全員無事との知らせを受け「ホッ」としたことを覚えています。数日後の安息日に、仙台に立ち寄る機会を得て、その山田さんや大人に成長したその子供さんたちとの再会を果たせたことは感謝でした。



説教をされる磯部牧師

さらに仙台での思い出は、北浦三育中の教師になっていた家内と10か月間の文通です。携帯の無い時代。筆不精なんのその、せっせと手紙を書いたことを覚えています。あの手紙、北海道時代に家内の提案で処分してしまいましたが、今、とても後悔しております。しかし家内と一緒に生活を始めた仙台、ホットな思い出の多い仙台教会インターン時代でした。仙台教会での働きを終え、主任牧師先生の手から離れて、いよいよ一人立ちの牧師として家内と共に東京（大岡山）へ行くことになります。

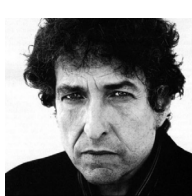
「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い」（イザヤ書55:8, 9節）

「闇を追いやる力（その１）」

2016年11月5日千葉キリスト教会講演会『闇から光へ』から

千葉キリスト教会 牧師 磯部 豊喜

皆さんは今の時代をどのように考えておられますか？世界では未だにどこかで戦争や騒乱が相次いでいます。今年のノーベル平和賞の受賞者は誰かご存知でしょうか？



大隅良典さん＝医学生理学賞、ボブ・ディランさん＝ノーベル文学賞）正解はファン・マヌエル・サントス・カルデロン氏です。この人は現在、コロンビアの57代目の大統領。

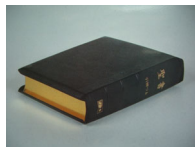
受賞理由は「50年以上にわたる国内の内戦の終結に向けた決然たる努力に対して」とのこと。コロンビアでは政府と左翼ゲリラ（FARC）」との内戦が続いていました。サントス大統領は、4年前に、この左翼ゲリラ勢力と和平交渉を発言し停戦合意に向け交渉を開始、そして今年の9月23日、左翼ゲリラは和平交渉を承認し、52年に及んだ内戦の終結を宣言。しかし前大統領を筆頭とする停戦合意反対派が反発し、その結果10月2日、停戦合意に関わる国民投票が行なわれて、合意は拒否され内戦終結は遠のいたといえます。私たちの生きている時代というよりも、人間というものは実に問題をはらんでいると思います。つまり闇を抱えて生きている動物ではないかとさえ思うのです。

今は戦争とは無縁のわが国であっても、明るいニュースよりも暗いニュースがあまりにも多すぎますね。人間がいるところは闇だらけに見えます。

ですが、この「闇を追いやる力」が一つあります。その一つが神の言葉です。この言葉には不思議な力があります。

この神の言葉の集約された素晴らしい本があ

ります。それは人の心の闇を追いやる力を持っています。それは皆さんのすぐ手の近くにあります。「聖書」という本です。この聖書という本は、人の歩みを180度変えることのできる魅力的な本です。



バチュラー・ダグラスという人。彼の父は、近年「ボーイング社」に吸収された「ダグラス社」の創始者です。また彼の母は、あのエルビス・プレスリーという世界的に有名な歌手の歌を作ったり、映画をつくるなど、とても頑張っていた人でした。バチュラーは、このような両親を持つことで、お金で買えるすべての物を持てていましたが幸せではありませんでした。人の幸せは、決してお金や物では得られません。彼の渴いた心は、ドラッグ（身体にとっても悪い薬物）に走ったこともあります。自分は生きていても意味がないと考えたことも幾度かありました。生きる喜びもなく、人生に疲れたダグラスは、やがて家出をし、人里離れた洞窟（ほらあな）に住むのです。



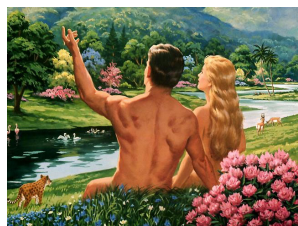
これがその時の、写真です。バチュラーは、この大自然の中で自分の心を満たす何かを求めました。

ある日のこと、彼の住处となっていた、岩の上に黒い本があったことに気づいて、これを手にとって開いてみました。この黒い本を開くと、内側の扉に、手書きの言葉でこう書かれていました。

「1972年7月12日、生まれ変わる。この聖書を見つけた人がこれを読んで、私と同じ平安と喜びを見いだすように祈る」とあって、この言葉を書いた人の名前が書かれていました。

3ページに続く





バチュラーは、手にした黒い本（聖書）を読み、最初のアダムとエバの話が気に入り、これを信じたいと思いました。

もし神が最初の人間（アダムとエバ）をお造りになさったとすれば、私はその子孫（ずっとあとの子供）であり、アメーバーやサルから進化したのではないのです。何か自分自身の存在に誇りが持てるような気がしました。しばらく読んで「ノアの洪水の話」も山の上から海の化石が発見されることを思えば、納得がいった。



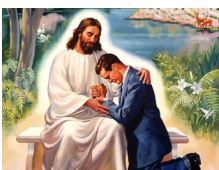
そして次に「十戒」というところを繰り返して読み、これほど素晴らしい人間のための決まりはないと思いました。

「もし、人々が皆この決まりを守って生活したなら、世界はどれほど素晴らしくなるだろう！」と思いました。戦争をしたり、人を殺すこともなくなるに違いないからです。

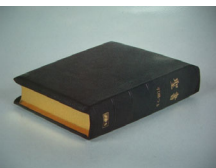
「あなたは殺してはならない」は聖書の十戒の一つです。



「あなたは殺してはならない」は聖書の十戒の一つです。



続いてバチュラーは新約聖書を読み、イエス・キリストのやさしい心に出会いました。こうして、ダグラスはやがて私どものSDA教会のクリスチャンになりました。全く新しい人に変えられ、今はキリストを語り伝える生活をしておられるとのこと。



聖書は、誰がよんでも難しい本です。ですがだれが読んでも、心を開いてお祈りして読

むと、天の神様のことが良く分かる不思議な本です。この天の神様は「愛の神」ゆえ、このお方のことが分かって来ますと、とってもうれしくなります。

あなたはヘレン・ケラーという人を知っていますか。2歳のときに高熱のために、目が見えなくなり、耳が聞こえなくなり、口も話が出来ない人（三重苦といわれる）のなった女の人ですね。ヘレンは子供のときはとても怒りんぼうで、わがままな子供でした。



ヘレンのお母さんは、このままではたいへんと思い勉強を教えてください人を求めました。



ヘレンの6歳の頃に、ヘレンのところにサリバンという素敵な教師が来てくれたのです。サリバン先生自身も3歳で失明し、手術によって視力を取り戻した過去がありました。まさに「同病相哀れむ」

ですね。これは有名な話ですが、ヘレンは、このサリバン先生によって、水を手にあてつつWATERを書いて教えてもらった手のひらの文字を覚えます。（左がヘレン、右がサリバン先生）ヘレンは大人になって世界中を飛び回って身体の不自由な人たちはげまして歩く人になりました。でも、このヘレン・ケラーの心の闇を追い払い、彼女をすてきな人にしたのは聖書でした。ヘレン自身の言葉を紹介しましょう。

「私が毎日、もっとも愛読する書物、それは聖書です。わたしの辞書には「悲惨（悲しいこと）」という文字はありません。」



4 ページに続く



ここで、皆さんと一緒に次の聖書が聖書のことを自己紹介しているところを開いてみます。

新約聖書のⅡテモテ3章15～17節です。

「また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。3:17 それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。」

確かに、この聖書を神の言葉として、心を開いて読む人には、新しい世界、喜びに満ちた人生が必ず開けて来ます。

この本は、もと死刑囚さえも真人間にする力を持っています。私の知る人に、数年前に故人となられた方ですが、新垣三郎さんという人がいます。この人は太平洋戦争時に罪の無い人を上官であった憲兵の命令で二人ほど殺害し、死刑囚になった人でした。



なぜ新垣さんが死刑囚になったかといいますと、これも憲兵の指図で「俺と一緒に死のう。俺はお前に彼らの殺害を指示したことを語る。お前は、自分が彼らをやったと言いなさい。こうすれば一緒に死ねる！」ところが彼に殺害を命令した上官は、自分が彼に殺害を指示したことを隠します。その結果、憲兵は釈放され、日本に帰りました。

一方、新垣さんは、憲兵に命令されたことを言わずに、自分の意思で二人を殺したと告白したために死刑囚になったのです。新垣さんは、後に聖書に出会い、この死刑囚からやがて牧師になります。これについては紙面の都合、次号に紹介することに致します。



今回掲載の記事は、2016年11月5日（土）千葉キリスト教会講演会『闇から光へ』にて講演されました
演題「闇を追いやる力（その1）」です。

（その2）、（その3）は「ぶどうの枝」春号、夏号にて掲載いたします。

神様と共に歩む幸せ

SDA木更津キリスト教会 岩根集会所 長谷川 治江

今日はお招き頂きまして有り難うございます。何か月か前に「証しを」と頼まれました。私は証ししなければならないという使命を最近すごく思っております。

何故かと言いますと本当にSDAに昭和55年にバプテスマを受けたのですが、ある時から突然私の信仰生活が変わったのです。それと言うのは2005年の5月頃に主人が突然、腰が痛いと言い始めました。すい臓がんでした。それで木更津の病院で診てもらいましたが、もう手の施しようがない、どこか他の病院に行きなさいと言われた時に、丁度アメリカの自然療法で有名なユーチパイน์と言う所に行く本があったのです。自分の具合が悪くなった時行きたいと思い持っていた本です。自分のためでなく、主人の病気の治療のためにアメリカのアラバマ州にあるユーチパイน์に娘と孫を連れて行くことになりました。

その時から信仰生活が凄く変わったのです。「海辺に足跡」という詩が有りますよね。木更津の病院の治療室に「海辺に足跡」の写真があって、詩が英語で書いてあったのです。これあの詩だなんて思いました。後から思うと、その時真にイエス様が私達を背負って、或いはその子供を抱かかえて、本当に海辺を歩いて下さったと言う経験をさせて戴きました。

私と娘はバプテスマを受けていましたけれど主人は未信者でした。そしてユーチパイน์に行つて自然療法の治療を受けていた時にいろんな事がありました。主治医はホースレイと言うクリスチャンの先生で素晴らしい方でした。その先生が主人に聖書研究をして下さり、先生はハッキリあなたに時は無い、バプテスマを受けませんかと言ったのです。そう言う事をハッキリ言うのです。でも主人はニコリ笑って、「先生もう俺さ一川とか海とか行ってバプテスマ受けられないよ」と言うのと、先生が「バスタブで出来るから大丈

夫」と言つて直ぐにその日の内にバプテスマを受けました。

村中の人がSDAの人なので来てお祝いしてくれて、主人は人前で話をするような人ではないのですが、ハッキリと「皆さんのお仲間にして頂きました。これから一生懸命勉強しますからよろしくお願いします。」と信仰の証明をしたのです。本当にその時そこに導かれて、私はユーチパイน์に行ったら、主人は必ず助かると信じつつ、イエス様がすい臓がんという苦難を通して主人を導こうとしているのだなと思いました。主人がバプテスマを受けた時、本当に輝くような笑顔でした。

最終的には向こうで亡くなったのですが、亡くなったその日その時まで元気でした。勿論痩せていましたし、食事も摂れなくなっていました。主人は「お父さん」と言うのと「だまってくれよ俺祈ってるんだから」と言つて寝ながら何時も祈っていました。もっと劇的な事も有るのですが今日は省きます。最後の散歩の時に車椅子でしかたけれど、主人が途中で「お母さんお腹が痛いから戻ろう」と言うので戻ったら下血していたのです。先生がちょっと診て私を呼んで、後数時間の命ですと言ったのです。でもこれはきっと間違いだろうと思っていたのですが、結局亡くなったのです。ドラマなどで見ると御主人が病室で亡くなると、「お父さん・・・!」と泣くシーンがありますが、私達は不思議なことに、「お父さん直ぐまた会えるんだよ」、主人は「分かってるよ」、そう言う口の利き方でした。「お母さん着物用意してくれよ」、それが最後の言葉でした。娘が「脈がない、じゃ亡くなったんだね」と言つて、そこは点滴も無いのです。

6 ページに続く



本当に笑って亡くなって、あんなに父親っ子だった娘が「お母さん良かったね」と言ったのです。私は最初この地に主人の臨終を見せるために私をこの地に送ったのですかと言うお祈りをしていたのが、最後は「ワー嬉しい」主人が「わが身も主のものとなりけり」と言う思いと感謝で一杯になり「神様感謝します」でした。神様は主人の救いの為にこの地に置かれたのですね。主人はバプテスマを受けて1週間目で亡くなりました。神様はその時を待って下さって、主人のバプテスマに間に合わせて下さった。バプテスマから一週間目に主人は再臨を希望して、「また会えるよ、分かってるよ」と言って亡くなったのです。それが私の信仰の本当の意味のルーツですね。そこから私たちは、ある意味の出エジプトをしました。

そして主人が亡くなって10年目に木更津の清見台に「ミルトスの木」と言う玄米菜食カフェのお店をオープン致しました。このルーツはそこから繋がっているのです。ユーチパインにカントリーライフと言う菜食のレストランが有ったのです。1週間に1回、軽い患者さん或いは付き添いの人達をそこに連れてって、お食事をさせてくれるのです。自然食品の物を売っていて、素敵なお飯を好きなものを取って食べるお店でした。主人がまだ元気だった頃「お父さん日本に帰ったら、こう言う世界があるという事を人に知らせなきゃいけないね。」と言ったら「おー、やろう！」と言っていました。

主人は亡くなりましたが、それは私の使命だと思って日本に帰ってきました。そして、あるお金をお捧げすることになりました。

私は保険の外交を36年やっています、お陰様で良い成績です。ですから収入には困っていないのです。でもそのお金を今捧げて使うべき時、もう時がないのでそれを神様に祈りました。「神様このお金をどうぞ神様の御旨のままにお使い下さい。」と祈って、そこから不思議なことばかり起こったのです。ある時、道路を通っていたら売地がパーッと目に入ったのです。我が家をリホームした時にとっても良心的な人がいたのでそちらに電話をしたら、「素晴らしい土地ですよ。そこ良いですよ。」と言うの

でそこを買ってその上に建物を建てました。そうしたら一杯不思議な証しがあるのです。お金がピッタリなのです。借金一つもしていません。そして建ちました。「共に一緒にやろーね」と言う人たちと料理の研究等をしていました。ところがいざオープンに向けてスタートした時に二人の協力者の一人が、ちょっとした事で「私は止めます」と急に言い出したのです。もう一人のセブンスデイの人は料理とても上手ですが、二人だけではとても無理なのです。使徒行伝の中に御霊によって止められたと言うところが有りますが、私は、神様が行け行けと言っても、そのまま行くのではなくて、御霊によって止められる事も有ると思って、今は、落ち着いて止まる時かも知れないと思って止まったのです。神様どうしたら良いでしょうか神様にお捧げしたところですと祈っていました。

そうしたら不思議なことが起こったのです。もう一人の人と「これからどうしようか」などと話をしていたら、突然、全然知らない人ですよ。女の人が来たのです。「良いお店ですね。私君津にあるカフェ（結構有名）のオーナーをしていた者ですが体調を崩して今は止めました。何かあなたが困っているという事を聞いたので、私がお手伝いに来ました」私頼んでないですよ。突然来たのですよ。彼女は「良いお店ですね。飾り付け、ここはこうしたら良いですね」と言い、パソコンで「玄米菜食カフェミルトスの木」のポスターを作ってきて張ってくれて、いろんな事が始まったのです。とにかく飾り付けから全部その人がやってくれたのです。お皿とかはもう一人の人と揃えましたけれど、そして私は「本当にやるのー」という感じでいましたら、彼女は「私が、ここがちゃんとするまで手伝いますからやりましょう。」と言うのです。誰が頼んだの、不思議です本当に。

7 ページに続く



主人が9月3日に亡くなっているのです10年目の9月にオープンしようという事でいました。ところが8月末辺りで挫折、そうしたらその人が来て、「9月から準備して11月、年内にやりましょう」。「年内にやるんですか」と私が言うと、彼女は「年内にやらなければ近所の人に飽きられますよ。私がいるから大丈夫です。」と言うのです。彼女は料理も上手、メニューも全部彼女が決めて勿論菜食ではないので、私たちが菜食のレシピを持って来たら、その採食料理のデザインを彼女がとても綺麗に作ってくれました。サラダの綺麗な盛り付け等も皆さん「可愛い、素敵」などと言ってくれます。私たちは体に良い物は知っていますが、美しさとかは余り気にしていなかったのです。彼女が全部「こうした方が良いですよ」とやってくれたので、11月23日オープンでその時の日記に書いてありましたが、心が平安でした。何も心配なかった。不思議でした。そしてオープンした時に何の宣伝もしていないのですよ。オープン初日、20人しか入らない所に36人来たのです。もう私「こんな事あるー。」って言う位ビックリしました。本当に神様に従った時、こんな事有るのだと言う事です。そして彼女は今年の2月頃までやってくれて「もう大丈夫ね」と言って去って行きました。

モーゼが神様の宮を作った時に祈った通りに私も祈りました。どうぞ一つ一つ神様が教えてくださいと祈りながら、全てを進めました。例えば、食洗器は入れる予定がなかったのですが、彼女のアドバイスの通り食洗器を入れたのです。後になってみたら食洗器がなかったら回って行けないのです。もう本当に無駄なものはないのです。冷凍庫も家庭用の大き目の冷蔵庫を置けば良いか位に考えていたけれど、不思議な方法で中古の業務用の冷凍庫が入ることになった。後になってこれがないと出来ないことが分かったのです。冷凍にすることが凄く多いのです。家庭用の冷凍と業務用の冷凍では温度が違い冷凍速度も違うのです。冷凍後の味も全然違うのです。不思議です。彼女から揃えなさいと言われて揃えた物は全部生きています。今彼女はいないけれど、時々電話をくれたりメールをくれたりしています。そしてこの前来たのでお礼をしたのです。彼女は「ここで習った玄米菜食、発酵発芽玄米がとても良くて、初めて知った」と言い、「私も今、お弁当

屋さんをやるからこれを使って良いですか」と言うので、「良いですよ」と言いました。彼女は「私もここで教えられた」と言って彼女も満足して下さったのです。本当に不思議な体験をしつつ有ります。

そして彼女がサインズのことを言っていました。私のお店でもサインズを置いてお客さんに配っています。サインズの中にも料理の事が書かれています。皆自然の食を求める人はやはり信仰心も有るのです。時には、がんの方が帽子かぶっておられて一人で食事して相談を受けます。そう言う雰囲気があるのではないのでしょうか。そして私は求めている魂に出会わせ下さいと祈りをしています。一人二人とそう言う人たちが集まって来ます。今その種まきはしましたので後は神様が実らして下さいとお祈りはしていますけれど、でも本当に不思議です。ここでしか出会えない魂に出会えているという事は本当に感謝です。これから先も神様のもとで働きたいと思っています。

(2016年10月1日(土)の「証しと賛美の集い」における証しより。)



神様との繋がりに支えられた「ニュージーランド留学」

千葉キリスト教会 土屋 輝昌

私は去年の6月6日から今年の5月29日まで約1年間ですけど、ニュージーランドの方に語学留学をしていました。そのニュージーランドに居た期間の経験を皆様にお伝えしたいと思います。私がこの計画を考えるようになったのは、55歳の時で、千葉市役所に勤めていました。55歳になると定年退職後のことを、今から考えなさいと言う研修があり、私もそれに参加しました。

その時、私は既に教会に繋がっていました。森田先生とか東海林先生に週1回の聖書研究でお話を聞いていました。バプテスマを受けたのは58歳の時でした。

そのころ私は市立稲毛高校と言う所で事務長をしていたのですが、そこは英語教育に特化していました、外国人の英語講師が5人もいる通常では考えられない程、英語教育に力を入れており、それと中高一貫教育と言う二つの大きな柱がある学校でした。その中にアメリカ・イギリス・オーストラリアとニュージーランドの人達がいて、その中にニュージーランド人が一人いたのです。そのニュージーランド人は非常に優しい方でした。生活のリズムがゆったりしていて、ニュージーランドってどんな国なのかと言う気持ちを当時持っていました。通常的生活の中で生徒が中学校・高校の廊下でネイティブスピーカーと自由に話をしているのを、仕事をしながら聞いている訳です。でも分からないのです。悔しかったですね。

そう言う時期にこの研修を受けて、私も60過ぎたら英語勉強をしてみたいなと妻に話しをしていました。「どの位行きたいの」と言うので私は2年間位と言いました。ところが「何を馬鹿なことを言ってるの」と全く相手にされませんでした。私自身としては事を性急に運んではいけないと思い、胸にしまいながら気持ちは持っていたのです。60過ぎて1年間嘱託として図書館の方に勤めていた時に、また英語の勉強を週に2回日本の語学学校に通って勉強しまして、妻に説得を始めました。最終的に本気だったのだと言うことが分かってもらえ、1年と言う事で申し訳ないけれど行かせて頂きたいと、この計画

を実行に移した訳です。

具体的には、ニュージーランド日本文化交流協会が東京の稲城市に有りまして、そこを通じてニュージーランドの語学学校に入学させてもらいました。行くのであれば日本人の少ない所、人口が多くない所で出来るだけ自分を厳しい環境に置く方が良さだろうと思い、ニュージーランドのオークランド国際空港からバスで3時間半位のフィティアンガという4000人の町に行きました。向こうの方は68歳と81歳の公務員を退職された方で、その家にホームステイで入りました。

まずそこで1か月生活した中で感じたのは、自分の英語力が全く通用しないことでした。最初の1カ月はパソコンが私の唯一の日本との接点でした。そのパソコンで色々日本との情報を見たり聞いたり、日記を書いたり調べ物をしたりしていましたが、ニュージーランドに着いて2週間たった時に、そのパソコンを落としてしまったのです。床が固い所に落としたので割れて壊れてしまいました。凄いショックでした。その学校の先生にこう言う状況になったので、パソコン何処か売っているとところ有りませんかと聞いたら、車で1時間40分行かないと電気屋ないよと言われ、「連れて行ってもらえないかな」というと、1週間後に学校の事務の方が連れて行ってくれる事になりました。で、連れて行ってくれましたけれど、私はまだ2週間位しか経っていないので、殆ど英語が聴きとれないのです。学校の事務の方は「あそこに電気屋があるから、あそこに自分で行って話してこい、自分は用事があるので1時間後に戻って来るから買って来い」と言われたのです。「私、えー、話せないどうしたら良いんだ」と思いました。

9 ページに続く



ただ私はこの計画を決めた時にはバプテスマを受けていたのです。多分ニュージーランドに行ったのも神様の導きで行っているはずなので、何が有っても大丈夫だろうと楽観的な気持ちでいました。電気屋に入ると直ぐ店員が来ました。お客さんですから。店員さんが直ぐ寄って来て何か言っていました、「何が必要なの」みたいな事を言ったのだと思うのですが、私は「インターネットが使えて、スカイプが出来て、メールが送れる、この3つが使えるパソコン持って来て」と言ったのです。そうしたら持って来ました。それは大体500ドル位で、日本より安かったのです、良いなと思いその場で決めました。

最初の1カ月はドキドキの連続でした。何しろ学校でも、今のような状況で学校に行ったものですから、学校には生徒がその当時私も含めて20人位、殆ど日本人はいなくてヨーロッパ人のとスイス・フランス・ドイツ・イタリア・スペインそれから韓国・タイと言った国々の人がいました。10代・20代が中心ですね。そう言う人達は英語の勉強しながら、午後は自分の自由な時間を過ごしていました。私はひたすら図書館です。

小さな町なので行く所が有りませんし、何も出来なかったですから。一人でひどい所に来てしまったなと思ったのです。これで大丈夫なのだろうかと言うふうな1カ月でした。話さないから聴けない、聴けないから話せないと言う悪循環で友達もできないのです。心が潰されそうになってしまうのです。外に行って体を動かせば忘れるだろうという事で、ビーチまで歩いて10分位なのですが、冬の真っ暗な中で、ダウンジャケットを着て、砂浜の私の所定のベンチにいつも座って、空を眺めて聞くのは海の音だけです。やはり考えることは何でここに來たのだろう。こんなはずじゃないと自問自答でした。

神様は何でここに來させたのですかとよく問いかけていました。波の音しか聞こえませんが、ジャブジャブした波の音が「You can do it」みたいに「あなたは出来るよ、あなたは出来るよ」と聞こえた気がするのです。そ

れでこのままじゃいけないと言うので、出来るだけ人に話しかけるようにしました。人に話す、外国の人はやはり何も言わないと基本的には馬鹿にします。意見を求められればきちんと自分の言いたいことは言う、間違っていたとしても言わなきゃ何もならないのです。5か月目位からは何とか生活できるようになりました。

3か月目になってですね、学校の先生が6人位いらっしゃるのですが、人数は少ないですがだんだん夏に向かって生徒が増えて行く学校なのです。最盛期は60人位になります。それで6人位英語の先生がいた中で、1人だけ気に入らない先生がいました。何がいけないかというと、生徒の事を馬鹿にする、英語が出来ないから馬鹿にする、私だけではなくて、他の生徒に対しても同様でした。言葉では言いませんが態度とか言動で分かるのです。3か月位たってくるとそんな感じがしたのです。私は耐えられなかったのです。やはり先生の基本と言うのはそう言うものではないだろうと、信頼関係が取れないですから、先生と生徒の間で。この学校でこの先生に1年間やって行くと言うのは、とても耐えられないと言う風に私は思いました。そこでまず、学校の事務職員に、私はこの先生とは合わないと言いました。何故この学校を移りたいと事務職員に話したかと言うと、やはり組織にいた人間として、最初は事務の人に話をし、飛び越して直接校長に言う訳にはいけないと思ったからです。最終的には事務の人から校長に話を通しておいたので、校長に話に行けと言われ、私は校長に話をしました。でもその前に自分の話とか相手の話す事については分らないといけないので、一所懸命勉強して、話を理解してもらって転校が出来るように頑張りました。それが結果的に私の英語力は向上した一つになった訳です。結果的に私は良い経験をしたと思っています。

神様に感謝です。

10ページに続く



その時に良くお祈りもしました。現地での教会にも、私は週1回通う様にしました。そこでも祈りました。その教会はプロテスタント系の教会で日曜礼拝があり毎週日曜毎に行っていましたので、その都度、心を新たにしていって段々心が強くなってきました。潰されるような事が無い様な状況に精神力が回復してきました。その教会の影響と言うのは非常に大きかったです。私はこのような状況の中で、朝起きた時に障害のある左手を見るのです。自分の手ですこれは、人の手ではないです。手を見た時に「イエス様今日も起きることが出来ました」とか「今日もお守り下さい、お導き下さい。」という事を感じて祈るのです。そうするとこの手は、交通事故で今は使わない手かもしれないけれど、神様が創造された、凄く大事な手で、私の一部になっているのです。私にとって、日本でのSDA教会との繋がりが、留学先での教会に繋がったという事が、英語留学の生活を続けて行く根源になっていました。

そして8か月後ですね、私は違う学校、南島のネルソンと言う所に有る英語学校に移りました。そこは6万人位の人口です。町の規模が違いますので色々なレストランが多く有りました。その学校は非常に居心地が良かったです。その学校は100人規模の結構大きな学校だったのですが、先生も生徒達も良く、特にヨーロッパのスイスの方が多かったです。

そこで調べましたらネルソンにはSDA教会があったのです。嬉しかったです。早速その教会に繋がって、色々な人達と交流を持つことが出来るようになりました。その時はもう8か月も経っていましたので、ある程度自分の紹介とか相手の話とかを聞くことが出来るようになっていましたから。

ネルソンと言う所で4か月間生活したのですが、それは非常に有意義な生活で教会もSDA教会以外に、一杯有りました。自転車ですっていると「ボランティアで英会話教室をやっていますよ」とポスターが掲げてありましたので、色々な教会と繋がりを持たせてもらいました。私は日本でのSDA教会との繋がりが、私の英語留学の継続をしっかり支えてくれたと強く感じています。夜も眠れないことが月に1回は必

ず有ったのです。その時には教会の事、又自分の手を見ると落ち着くのです。私はこの話をネルソンのSDA教会でも、8か月いたフィティアンガの教会でも最後の時に20分程時間を頂いて、証しをさせてもらいました。私が何時も思い出すのはマルコ12章10節・11節、「家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。これは主がなさった事で私たちの目には不思議に見える」。そこを何時も私の教会員としての原点として、こう言う風になった事は神様に導かれた事と思っています。

何でニュージーランドに行って生活をしているのかと、そう言う問いかけは、必ず向こうの学生から聞かれました。私はその時、2019年のラグビーのワールドカップや2020年のオリンピックのためにボランティアとして働きたいのだと説明をしました。これは私の気持ちの中の半分です。私がどの程度の能力が有るのか、私自身が殆ど喋れない人間がそう言った環境にぶち込まれた時に、どの程度自分で色々な事を解決してやって行く能力が有るのかどうかを知りたかったと言うのが残り半分の理由です。

英語留学では、凄く悔しい思いを一杯しました。自分自身のキャラクターは、こんなに負けず嫌いで頑固だとは思わなかったです。

最後に申し上げたいのは、安易に考えて英語留学をこの歳でするべきではないことが良く分かりました。もし英語留学するのであれば若い頃にやるべきです。頭の動きがクリアな時に。

私は楽観的な性格ですが本当に1か月間は、うつ病になるかと思いました。ならなかったのは教会との繋がりが有ったからこそです。

つまり私が最終的に何を皆さんにお伝えしたのかと言うと、私は導かれてニュージーランドに行きました。神との繋がりが一番重要なのだと言う事を私自身分からせて頂いたという事が一番の収穫でした。

(2016年10月1日(土)の「証しと賛美の集い」における証しより。)

「菜食料理講習会」で作ったお弁当をお届けした方々のお声

千葉キリスト教会 女性部家庭会 野中 洋子

私たち配食しているところです。

石橋兄と私野中が配食担当です。

(右の写真です。)



配食したメニューです。

おそばです。今回は新そばです。

一年に、おそばのメニューは3回あります。

3月、5月、11月です。



金子様のお声です。

Q:今までで一番気に入ったものはありますか。

A:自分で自炊しているので、自分では作らない料理が届いた時はやっぱりいいですね。魚・肉・根菜・果物やひじきとか自分では気を使ってやっていますが、自炊で用意することが出来ないものが入っていると嬉しいです。コープとかの配食弁当やってみました長くて2か月ぐらいで飽きますね。今は止めています。

月一シャローム(教会)さんからのこのお弁当で一番気に入っているのは、何もしないで即頂けると言うところが魅力です。ですから一般の主婦の方々はこのようなおか

ずを作るのは大変だろうなと思います。私も自分で自炊をしておりますが、その面倒なことが、今日はこのお弁当が届くので有りません。



野口様のお声です。

Q1:長いこと届けてますが何年になるか分かりますか。

A1:2～3年位かな。

Q2:今までのお弁当の中で何が一番気に入ってますか。

A2:天ぷら、煮物、お漬物、酢の物等が気に入ってます。



瀬古様のお声です。

Q:今日で2回目ですね。何か感想を聞かせて下さい。

A:何時も有難うございます。



「千葉県教会音楽祭」に参加しました —参加した賛美グループ「賛美アフタヌーン」のご紹介—

千葉キリスト教会 女性部家庭会 長 浅川 千鶴子

音楽祭での合同賛美

千葉県教会音楽祭(南ブロック)2016年9月19日が千葉英和高校チャペルにて開かれました。

賛美アフタヌーンは磯部豊喜牧師と共に初参加しました。故吉田広子姉の愛唱讃美歌『父の涙』と磯部豊喜牧師の作詞による『365日の御手の中』(原曲は「365日の紙飛行機」。今回は特別に「著作権協会の許可を得て」合唱しました。)を心を合わせ賛美しました。

感謝でした！！涙ができました。来年も必ず聞きに行きます。いろいろな所で賛美してほしいです。との嬉しい声かけをいただき祝福されたひとときでした。



音楽祭で賛美する「賛美アフタヌーン」のメンバー

賛美グループ「賛美アフタヌーン」のご紹介

千葉教会家庭会に賛美アフタヌーンが与えられました。家庭会の集いですので、“神様だいすき、私も賛美したい！”と願う、子供達からジイジ、バアバまで、どなたでもOkの賛美グループです。時間の許す限り集まって、楽しく声合わせしたいとおもいます。皆様のご参加をお待ちしています。

毎月第2安息日 PM 1:00～3:00(シャローム若葉2階) PM 12:45～1:15(礼拝堂使用可の時)



「賛美アフタヌーン」のメンバーの皆様



「敬老お祝い会」が開催されました

千葉キリスト教会 執事長 吉田 敏英

去る9月3日（土）の午後に恒例となっている千葉教会敬老お祝い会が、満年齢75歳以上の方々を招待して催されました。教会員に止まらず普段教会を訪れている方々にもお声掛けをし、祝賀対象者26名を含めて総勢88名の方が参加してくださいました。

先ず、開会のお祈りに引き続き、千葉教会の磯部牧師によるお祝いメッセージがあり、続いて教会の子供たち9人が夏休みに詠んだ俳句を披露してくれました。

以下に力作・傑作を掲げます。

①「プール底 おしりをぶつけて いてててて」

→夏休みプールに行った思い出です（M.M）

②「セミ鳴けば 戦艦三笠 ゆうかんに」

→横須賀の三笠公園にある戦艦を見てきました（J.Y）

③「夏休み いとこがきたよ うれしいな」

→大好きないとこが遊びにきてくれて詠んだ歌（H.K）

④「ナイトサファリ エサをあげたよ キリンにね」

→キリンの顔を近くでみました（T.M）。

⑤「夏の夜 動物園は にぎやかだ」

→夜の動物園の様子（S.K）

⑥「合宿で 優勝したよ うれしいな」

→バスケットの合宿で優勝しました（Y.M）

⑦「急流すべり おしりが痛くて ひっくり返る」

→プール遊びの一コマです（Y.N）

⑧「電気代 ママが喜ぶ 自家発電」

→夏休みの工作で太陽光発電機をつくりました（I.Y）

⑨「横須賀で カピパラ池で ひとやすみ」

→暑い日カピパラは一步も池から出ませんでした（A.Y）

続いて、祝賀対象教会員が答えてくれたアンケートのヒントを手がかりに会衆一同が本人を当てる趣向のクイズ「私は誰でしょう」を行い、バプテスマを受けた時のエピソードや趣味・得意芸（これだけは他人に負けない）などの回答を通して、教会の仲間の新たな側面を垣間見ることができました。

23名のご回答がありましたが、趣味・得意芸の一端を記載します。皆さん誰か直ぐに判りますか？

- ・マラソン、水泳（プール、海）、ゴルフ、編み物、料理（煮物）
- ・おふくろの味の家庭料理
- ・将棋（PC相手の）、ハーモニカ、弓道
- ・陶芸、マジック
- ・今、ともにハモること（合唱）が楽しい
- ・洋裁、木彫り
- ・染色、俳句

讃美の時間には、青年部と合同コワイヤーの美しい歌声を聴きました。締めくくりにご招待者を代表して木方兄のご挨拶を頂いて、渡邊長老の終祷を以って会を閉じました。

信仰の先輩方には、これからもお元気で千葉教会を盛り上げ、ともにイエスさまを見上げつつ歩むことができますようお祈りいたします。



第10回賛美のつどい

千葉キリスト教会 コワイヤー 酒井 紀子

『われらは感謝をもって、み前に行き、主にむかい、さんびの歌をもって、喜ばしい声をあげよう。』（詩編95章2節一口語訳一）

2016年8月20日（土）午後2時より千葉教会礼拝堂にて、第10回賛美のつどいが行われました。

明るい光あふれる夏の日の午後、心の底から神様を賛美したいとの想いで集まった参加者は約100名！千葉教会はじめ、九十九里教会、船橋教会など近隣の教会から、また個人参加の方々など、教会の枠を超えて多くの方が集まりました。

賛美のつどいは、会衆讃美歌とお祈りで始まり、千葉教会の賛美アフタヌーン、男声合唱による賛美、ハーモニカ演奏、フルート演奏、九十九里教会の子供たちの賛美と続きました。後半には、千葉教会元牧師森田ファミリーによる心温まる三重唱の賛美がありました。また、ソプラノ歌手岡田陽子さんの美しい歌声に拍手なりやまず、アンコールとなり、会場は一段と盛り上がりました。

最終ステージの“ヘブンズコワイヤー”には、千葉教会コワイヤーはじめ、その日集まった他教会の皆様、個人参加の方々を含め、多くの方々の参加がありました。“ヘブンズコワイヤー”の賛美は、その名のとおり天国での賛美の歌声となり、礼拝堂は喜びと感謝に満たされました。

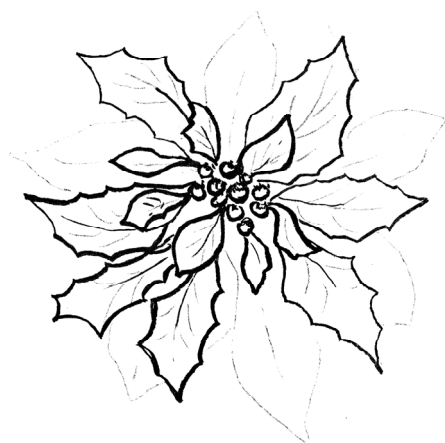
清らかな思いの中、磯部牧師の心に響くメッセージとお祈りがあり閉会となりました。

終了後のお茶会には多くの方が残ってください、手作りケーキやフルーツをいただき乍ら、豊かなお交わりのひと時でした。参加者全員心満たされ、散ずることができました。

なお、ヘブンズコワイヤーは、教会の枠を超えて神様を賛美したい方は、どなたでも参加できる賛美グループです。毎週土曜日の午後に練習しておりますので、讃美歌を歌ってみたいと思われる方は、ぜひ千葉教会においで下さい。コワイヤー一同お待ちしております。

（連絡先）千葉教会：043-231-3620

森 恵子：0475-82-4563



「ビジターズ・デイ」記（その2）

イエス・キリストの犠牲と救いを記念する「洗足・聖餐式」に参加いただきました

千葉キリスト教会 安息日学校長 渡邊 邦男

『ぶどうの枝秋号』に続きますが、「洗足・聖餐式」の内の「洗足式」とは、イエス・キリストが最後の晩餐の時に、ご自身が弟子たちの足を洗って、こう言われたことから始まりました。

「ところで、主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである。」(ヨハネによる福音書13章14節)

ここで、イエスは食事の前に弟子たちに「謙遜」な生き方を示しました。

全員の足を洗い終わると、用意された過越しの食事を皆で食べ始めました。

そして、「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。『取って食べなさい。これはわたしの体である。』また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。『皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が許されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。』」(マタイによる福音書26章26～28節)

こうして最後の晩餐を終え、その日の晩にイエス・キリストは捕えられ、翌日十字架につかれました。教会で行われる「洗足・聖餐式」は、この最後の晩餐にイエスが弟子たちに教えられたことにちなんでいます。

この晩餐はユダヤ教で行われていた「過越の祭」の食事のことですが、弟子たちにとって師であるイエスとの最後の晩餐となりました。その弟子のひとりにはイエスを裏切るイスカリオテのユダがいました。

このユダの手引きでその晩にイエスは捕えられるのですが、他の弟子たちは全員その場から逃げ去ってしまいました。

弟子たちにとって、まさかイエスが捕えられるなどとユダを除いては誰一人として知るよしもなかったのです。

しかし、十字架上でイエスの死の後に、ユダを除く11人の弟子たちは復活したイエスの励ましと、

神の助けを受けながらイエスの教えを思い出し、福音の宣教へと出て行ったのです。これが今日の教会へとつながっているのです。

互いに足を洗いあうことは「謙遜な生き方」を、パンを食べることは「イエス・キリストを受け入れる」ことを、杯からぶどうジュースを飲むことは「十字架の贖いによる贖罪と救いの約束」を象徴しています。

これはキリスト教の土台です。ですから私たちはこの「洗足・聖餐式」を聖なるものとして教会行事に組み入れているのです。

ちなみに、ユダヤ教で行われている「過越の祭」は、旧約聖書にある出エジプト記にその端を発します。

ヘブライ人(ユダヤ民族)がエジプトで400年に及ぶ奴隷生活の中からモーセに導かれてエジプトを脱出するのですが、それを拒み続けたエジプトに神は10の災いを下されます。その最後の災いは、王座につくパロの初子から奴隷の初子、家畜の初子にいたるまで皆死ぬというものです。

しかし、ユダヤ人たちにはモーセを通して、初子の代わりとして「傷のない一歳の雄羊」を屠り、その血を、屠った羊を食べる家々の入口の二本の柱とかもいに塗ることにより、この家の住人には災いが下らず「過ぎ越す」という約束が与えられていました。

このことにちなんだ祭りとして行われてきたのが「過越の祭」です。

そして、イエスは神のひとり子(初子)であり、人間の男子として生まれ、傷のない(罪のない)雄羊として屠られ(十字架につき)ました。

この十字架上で流されたイエスの血が、かもしや柱に塗られた雄羊の血をあらわし、イエスは、ご自分を救い主として、神の子として、神から遣わされた犠牲の雄羊としてこの地上に生まれて来たのだ、と証しするために、パンを取り「取って食べなさい。これはわたしの体である。」と言われたのです。

12月、2017年1月、2月の行事

◇ クリスマス特別礼拝及び教会クリスマス会

☆日時:12月24日(土) ☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆クリスマス特別礼拝:午前11時～12時

☆教会クリスマス会:午後1時30分～3時

☆クリスマス特別礼拝では、イエスキリストの降誕を祝い、希望と慰めに預かりたいと思います。教会クリスマス会では、主イエスのお誕生を、劇や賛美や演奏などで楽しく祝いたいと思います。

子供様へのプレゼントを用意しています。皆様のお越しをお待ちしております。

◇ クリスマス・コンサート

☆日時:12月25日(日)午後2時～3時30分

☆場所:千葉キリスト教会 礼拝堂

☆主イエスの降誕を、皆様とクリスマスキャロルでお祝いしましょう。合同コワイヤーの賛美やホルン、チェロ、フルート、オーボエなどの演奏をお楽しみください。皆様のお越しをお待ちしております。

毎月の定期集会

◇ 菜食料理講習会

☆日時:毎月、第一月曜日に開催します。午前10時～13時

☆場所:千葉キリスト教会 集会室 ☆参加費:500円 ☆どなたでもいらして下さい。

◇ 聖書セミナー

☆日時:毎月、第二、第四水曜日に開催します。午前10時30分～11時30分(変更の場合もあります)

☆場所:千葉キリスト教会集会室 ☆講師:千葉キリスト教会牧師 磯部豊喜

◇ サンセット・バイブル・カフェ

☆日時:毎月第四土曜日の夕べ開店します。午後5時30分～7時30分

☆場所:千葉キリスト教会 集会室

☆心がほっとする聖書の話、素敵な音楽、楽しいおしゃべりなど、癒しの時間を共に過ごすことができます。軽食とお茶を用意して、皆様のお越しをお待ちしております。

安息日学校(毎週土曜日)

☆賛美礼拝:午前9:15～9:25

☆聖書の学び:午前9:25～10:40

安息日礼拝(毎週土曜日)

☆千葉キリスト教会:午前11:00～12:00

☆シャローム若葉虹の家:午前9:30～10:10

祈祷会

☆毎週、火曜日夕午後6時及び水曜日朝午前7時30分から祈祷会をしています。

【編集後記】「ぶどうの枝」第5号2016年冬号をお届けします。号を重ねる毎に、SDA千葉キリスト教会を、より深く知って頂けたら幸いです。もうあとわずかです。今年1年を振り返りますと、夏祭り、芋煮会、サンセット・バイブル・カフェ、コンサートなどで多くの方々が教会に来てくださり、感謝です。

SDA千葉キリスト教会

〒264-0028

千葉市若葉区桜木5丁目15番1号

旧法務局前通り:3、4階 千葉キリスト教会

1、2階 シャローム若葉

電話:043(231)3620

FAX:043(231)1634

Email:sda-chiba@rio.odn.ne.jp

ホームページ:

<http://www2.odn.ne.jp/sda-chiba/>

★発行責任者:

磯部豊喜 牧師

★スタッフ:

酒井 闊 渡邊 治子

綿引 秀子